

令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立内灘高等学校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析と課題	
1 分かる授業の実践と家庭学習時間確保 GIGAスクール構想の一人一台端末を活用し、生徒の学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図り、進路実現につなげる。	①	授業や朝学習等において、ChromeBookやiPad等を用いて、Google for Education等の機能を効果的に活用し、家庭学習のあり方を再構築し、基礎学力を向上させる。生徒の個別最適な学びを踏まえ、協働的な学びを追求する。その結果進路、就職といった進路の実現につなげる。	【満足度指標】 授業等においてChromeBookやiPad等の情報機器が効果的に活用され、学習意欲の喚起につながっている。	「Chromebook等を効果的に活用した授業や朝学習は、あなたの学習意欲を高めることができた。」と回答する生徒の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (86.1%)	1人1台端末が実現し、生徒は放課後も含め、自由にタブレット端末で自学に励むことができています。さらに個に応じた学習が実現し、生徒が意欲的に取り組む様子が見られる。今後は他校実践例などの共有を通して、さらなる学習意欲向上を図りたい。
	②		【満足度指標】 学力向上のために、授業の目標やねらいを明確にして、内容の説明や教材が工夫されており分かる授業が展開されている。	「授業の説明や教材が工夫されており、分かりやすい授業である」と回答する生徒の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (91.6%)	各教員が創意工夫をして授業を行っている。授業のねらいや見通しを提示した上で、わかりやすい授業を展開できるようになった。今後も端末を利用した授業実践をすすめていく。
	③		【成果指標】 生徒がオンライン学習を含めて1日1時間以上の家庭学習時間を確保している。	「オンライン学習を含めた家庭学習時間が1日平均1時間以上」と回答する生徒の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	D評価 (24.5%)	昨年度(21.4%)と比較し3.1ポイント増加した。しかし昨年度同様、前期と比較して全体的に低調となっている。ICT端末の持ち帰りも手続きの上許可しており、端末を用いた課題研究や宿題を準備してさらに改善を図っていきたい。
	④		【努力指標】 生徒個々の学習状況の把握や学力定着を図るために適切な質・量の課題を課することができる。	「生徒個々の学習状況を把握し、学力定着を図る課題を課している」と回答する教員の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (95.7%)	「よくあてはまる」と「まあまああてはまる」の割合が、前期の合計63.7%よりも32ポイント伸びており、教員の意識も大幅に向上している。今後も生徒にあった課題のあり方など模索していきたい。
	⑤		【成果指標】 進路ガイダンスや進路講話等を利用して、1年、2年における進学又は就職の希望未定者を抑制する。	「進路未定者の割合を1年は10%以下、2年は5%以下とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	A評価	進路希望未定者について、1年生は50名中3名(6%)、2年生は44名中1名(2%)である。担任等との面談が効果的におこなわれて、未定者は減少した。来年度に向けて、合格や内定を勝ち取る力を身につけさせていきたい。
	⑥		【成果指標】 個に応じた進路指導を行い、4年制大学進学者5名以上、就職希望者の就職決定率100%を達成する。	「4年制大学進学者5名以上、就職希望者の就職決定率100%とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	B評価	現在、4制大学進学決定者は11名、就職希望者は15名のうち14名の就職先が決定している。就職先未定者の支援を継続的に行っていききたい。
学校関係者評価委員会の評価		教員が授業でねらいや振り返りを意識して取り組んでいることはスキルアップに努めていることであり、良好である。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		「授業のABC」など本校独自の目安を設け、引き続き教員の授業力向上について若手研を中心に日々働きかけていきたい。				

重点目標	具体的取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	12月集計結果	分析と課題
2 挨拶や人間関係づくりなどに留意した生徒指導と教育相談の実践 生徒の基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を高めるとともに、18歳成人に向けて、自分の個性や適性を考え、自分の将来を決定する力を育む。	① 普段の挨拶や学校での人間関係の構築に向け、具体的な態度を掲げることで生徒指導の指針とする。また学習以外の用途でのスマートフォン等使用時間について、生徒に主体的に考えさせ、望ましい人間関係を構築する。	【満足度指標】 生徒が「いじめのない安心できる学校生活を送ることができる。」	「学校はいじめに対しての取組や指導をしっかり行っている」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	B評価 (84.9%)	いじめに対する指導について、取組や指導がしっかり行われているとの回答が前期より3.6ポイント向上している。前期に引き続き担任を中心に教員間のアンテナをしっかりと立て、情報交換等がしっかり行えた結果であると考ええる。
	②	【努力指標】 家庭において、スマートフォン等の使用ルールを決め、ルールが守られている。	「家庭において、スマートフォン等の使用ルールが守られている」と回答する保護者の割合が A 60%以上 B 50%～59% C 40%～49% D 40%未満	C評価 (47.0%)	前期同様の結果である。引き続き、学校から家庭には、誹謗中傷、犯罪サイトからの防衛等、加害者や被害者にならないようにするための家庭でのスマホ指導の協力をお願いし、使用ルールの設定に協力していただく。
	③	【努力指標】 課題探究を将来につなげるテーマとしてとらえている。	課題探究について「自分の将来につなげるテーマを考えた」とする生徒の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A評価 (70.0%)	今年度新設の設問である。3学年とも総合的な探究の時間を通して、常に社会を意識し、自らを見つめることができるよう働きかけをおこなってきた。これからも一層意識をしていくよう働きかけていきたい。
	④	【満足度指標】 生徒は本校に進学して良かった、保護者は進学させて良かったという満足度が一層向上している。	「本校に進学して（させて）良かった」と回答する生徒・保護者の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (96.5%)	前期よりさらに2.2ポイント向上した。今後とも生徒一人ひとりに寄り添いながら生徒の自己肯定感や自己有用感を高める指導をおこない、多くの生徒が目的意識をもって高校生活を送るよう指導していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		県内のBYODのパイオニアである内灘高校なので、スマホの良い使い方と悪い使い方を分けて考えたり、指導したりする必要がある。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		GIGAスクール構想のもとスマートフォンの代わりにChromebookを通して、これまで以上に深い探究力を培うことができる学習を提供できている。さらにスマートフォンの使用について保護者と相互に意見交換をしながら生徒に働きかけていきたい。			
3 外部との連携と社会参画意識の醸成 同窓会や地域との連携や情報発信に努め、地域から信頼され必要とされる学校を目指す。	① 積極的な情報の発信と収集に努め、進学や就職した卒業生や地域の教育資源等を利活用して、生徒の社会参画意識を高める。	【努力目標】 同窓会や地域との連携に基づくイベントや行事を通して、生徒が地域に目を向け、社会参画意識を高める。	「同窓会や地域との連携を実感した」と回答する生徒の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A評価 (76.4%)	チャレンジ活動などでは同窓生、地域の方々とともに生徒は有意義に学ぶことができた。来年度も就職模擬面接や社会人講話等で同窓生に協力を依頼し、生徒の社会参画の意識を高めていきたい。
	②	【努力指標】 ホームページの一層の充実等により学校の取組についての情報発信を行う。	「情報発信が効果的にされており、学校の教育活動が理解できる」と回答する保護者の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (96.5%)	前期よりさらに1.3ポイント向上した。学校の取り組みについてホームページ・内灘高だより・学年だより等により情報発信している。本校を地域に広く理解していただくために今後も引き続き学校の取り組みについて、タイムリーに情報発信していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		ホームページの充実、内容豊富な内灘高だより等により一層「見える化」され、保護者側も情報を共有しやすい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		本校のホームページや内灘高だよりを通して今後も広く地域に情報発信していく。			
4 教職員の多忙化改善 時間管理を意識し、業務分担と協力体制により、業務の効率化を図る。	① 教員自らが働き方を見直し、担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につなげる。	【成果指標】 各自が効率よく業務分担を図り、時間外勤務の縮減に努める。	「担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につながった」と回答する教員の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A評価 (82.6%)	前期同様、肯定的な回答をした教職員の割合は高い。ICT支援員の導入によって全体的な業務の効率化が図られている。今後も各自が効率よく業務の分担を図り、時間外勤務の縮減に努めていきたい。
	②	【努力指標】 各課主任や学年主任が担当課において、業務の効率化に積極的に取り組んでいる。	「業務の割り振りや効率化を図ることについて積極的に取り組んでいる」と回答する主任の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A評価 (87.5%)	課や学年など、どの分掌も業務の割り振りができていることが伺える。常に情報交換を欠かさず、生徒の立場を考えたうえで行事の精選に取り組んでいる結果である。今後もICTを活用するなど工夫して、業務の効率化に努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		教職員の多忙化改善に向け、難しいと思うが、生徒や先生のためにも大いに期待している。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		昨年度より特に後半は時間外勤務が減少し、タイムマネジメントの意識化が進んだ。さらに業務の効率化をより徹底することにより勤務時間の平準化を進め、生徒との時間確保に繋げていく。			